

報告・協議 1

公立高等学校入学者選抜制度の改善の進捗状況及び
県立高等学校における現状等について

このことについて、別紙のとおり報告します。

令和2年12月23日

広島県教育委員会教育長 平 川 理 恵

公立高等学校入学者選抜制度の改善の進捗状況及び 県立高等学校における現状等について

- 公立高等学校入学者選抜制度の改善の進捗状況について
- 県立高等学校における現状等について

公立高等学校入学者選抜制度について

1 改善の視点

本県において、生徒が自ら課題を発見し、解決していく能力を培うなど「主体的な学び」を促す教育活動（学びの変革）に取り組んでいることや、新学習指導要領の趣旨を踏まえた各高等学校の教育目標の実現に向けた入学者選抜の質的改善を図る必要があること（平成31年3月文部科学省通知）などを踏まえ、「広島県の15歳の生徒にどのような力を付けさせたいか」という観点から改善を行う。

〔広島県の15歳の生徒に付けさせたい力〕

- ・ 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力

2 改善の主な内容

- 各高等学校・学科の特色に応じた入学者選抜の充実を図るとともに、中学生の一層の主体的な学校選択を実現するため、全ての高等学校・学科において、教育目標（スクールポリシー）や育てたい生徒像、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）などを明確に示す。
- 中学校及び高等学校における授業時数の確保などにより、各学校の教育の充実を図るため、高等学校入学者選抜を「一次選抜」と「二次選抜」の2回とし、入学者選抜に係る期間を短縮する。

(1) 選抜の内容

ア 一次選抜

- ・ 全ての高等学校・学科において、学力検査の実施及び調査書の活用による入学者選抜を実施する。学校・学科ごとに、独自検査の実施を可能とする。
- ・ 全ての高等学校・学科において、受検者全員に「自己表現カード」を作成させ、当該カードを活用した「自己表現」を実施する。
- ・ 学力検査、調査書及び自己表現の比重は、次の割合を基本とし、学力検査における傾斜配点を可能とする。
学力検査：調査書：自己表現 = 6：2：2
- ・ 高等学校・学科ごとに、入学定員の一部において、学力検査や調査書等の比重の設定、学力検査における活用教科の設定、調査書における活用教科の設定や傾斜配点を可能とする。

イ 二次選抜

- ・ 「一次選抜」の合格者が入学定員に満たなかった高等学校・学科において、その特色を踏まえて、入学者選抜を実施する。

(2) 調査書

- ア 中学校において作成する調査書については、次のとおりとする。
 - ・ 記載内容：志望校等、氏名、性別、学習の記録（評定）、特記事項
 - ・ 対象学年：第1学年から第3学年まで
- イ 学習の記録（評定）における学年間の比重は、次のとおりとする。
 - ・ 第1学年：第2学年：第3学年 = 1：1：3

3 実施時期

制度の改善については、令和5年度入学者選抜から実施する。

公立高等学校入学者選抜制度の改善 現行制度との比較

	現行制度	改善内容
実施内容 ○: 必須 △: 実施可能	選抜(Ⅰ)[推薦] ・学科ごとに定員の20%~50%	選抜(Ⅰ)と選抜(Ⅱ)を統合し、「一次選抜」として実施
	○推薦書・志望理由書	
	○面接	
	○調査書	
	△学力検査以外の独自選抜	
	選抜(Ⅱ)[一般] ・選抜(Ⅰ)入学確約者を除いた数	一次選抜 ・入学定員の100%で実施
	—	○教育目標(スクールポリシー), 育てたい生徒像, 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)等の明示 △一般枠と特色枠による2段階選抜
	○一般学力検査	○学力検査 △学力検査における活用教科の設定
	△学力検査の傾斜配点(2教科以内・2倍以内)	△学力検査における傾斜配点
	○一般学力検査と調査書の比重 (一般学力検査:調査書=125:130)	○学力検査, 調査書及び自己表現の比重 (学力検査:調査書:自己表現=6:2:2)
	△定員の20%以内で一般学力検査と調査書の比重変更	△学力検査や調査書等の比重の設定
	△面接	○自己表現カードの作成 ○自己表現カードを活用した自己表現の実施
	△実技検査	△独自検査の実施 (独自の学力検査, 面接, 小論文, 作文, 実技 等)
	△自校作成問題による学力検査	
	○調査書	○調査書(対象学年:第1学年から第3学年まで) (第1学年:第2学年:第3学年=1:1:3) △調査書における傾斜配点 △調査書における活用教科の設定
	選抜(Ⅲ)[二次募集] ・選抜(Ⅰ)(Ⅱ)合格者が入学定員に満たなかった場合	二次選抜 ・一次選抜の合格者が入学定員に満たなかった場合
	—	○教育目標(スクールポリシー), 育てたい生徒像, 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)等の明示
	○面接	○自己表現の実施
	○調査書	○調査書(対象学年:第1学年から第3学年まで) (第1学年:第2学年:第3学年=1:1:3)
○作文	△独自検査の実施 (作文, 学力検査以外の学校独自検査 等)	
△選抜(Ⅱ)の学力検査結果の活用		
調査書 ○: 必須 △: 実施可能	○記載内容	○記載内容
	・学習の記録・行動の記録・欠席 ・総合的な学習の時間の記録 ・特別活動の記録 ・スポーツ・文化・ボランティア活動等の記録	・志望校等・氏名・性別・学習の記録(評定) ・特記事項 ※「特別活動の記録」などは、自己表現カードに記述する。
	○対象学年:第1学年から第3学年まで	○対象学年:第1学年から第3学年まで (第1学年:第2学年:第3学年=1:1:3)
	○「学習の記録」の評定は9教科を指導要録に従い5段階で評定 〔選抜(Ⅱ)は4教科の評点を2倍〕	○「学習の記録」の評定は9教科を指導要録に従い5段階で評定 △傾斜配点〔再掲〕 △活用教科の設定〔再掲〕
	○「学習の記録の観点別学習状況」等は選抜の資料として活用	—
実施時期	—	制度の改善:令和5年度入学者選抜から実施

●●高等学校 ●●●課程 ●●●学科 [] コース

一次選抜

教育目標	
育てたい生徒像	
入学者受入方針	

項目	内容																																								
入学定員	人																																								
枠	① 特色枠	② 一般枠																																							
割合 (人数)	% (人)	% (人)																																							
配点の比重	一般学力検査：調査書：自己表現：学校独自検査 = : : : (: : :)	一般学力検査：調査書：自己表現：学校独自検査 = 6 : 2 : 2 : (600 : 200 : 200 :)																																							
一般学力検査																																									
配点	点→ 点に換算	点→600 点に換算																																							
実施内容	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 傾斜配点・活用教科等の設定あり	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 傾斜配点等の設定あり																																							
	<table border="1"> <tr> <th>国語</th> <th>社会</th> <th>数学</th> <th>理科</th> <th>英語</th> <th>計</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	国語	社会	数学	理科	英語	計							<table border="1"> <tr> <th>国語</th> <th>社会</th> <th>数学</th> <th>理科</th> <th>英語</th> <th>計</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	国語	社会	数学	理科	英語	計																					
国語	社会	数学	理科	英語	計																																				
国語	社会	数学	理科	英語	計																																				
調査書																																									
配点	点→ 点に換算	225 点→200 点に換算																																							
実施内容	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 傾斜配点・活用教科の設定あり	※ 標準のみ																																							
	<table border="1"> <tr> <th>国</th> <th>社</th> <th>数</th> <th>理</th> <th>音</th> <th>美</th> <th>体</th> <th>技</th> <th>外</th> <th>計</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	国	社	数	理	音	美	体	技	外	計											<table border="1"> <tr> <th>国</th> <th>社</th> <th>数</th> <th>理</th> <th>音</th> <th>美</th> <th>体</th> <th>技</th> <th>外</th> <th>計</th> </tr> <tr> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>225</td> </tr> </table>	国	社	数	理	音	美	体	技	外	計	25	25	25	25	25	25	25	25	25
国	社	数	理	音	美	体	技	外	計																																
国	社	数	理	音	美	体	技	外	計																																
25	25	25	25	25	25	25	25	25	225																																
自己表現																																									
配点	点→ 点に換算	点→200 点に換算																																							
カードの 学校独自質問	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し ・	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し ・																																							
学校独自検査																																									
実施有無	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し																																							
配点	点→ 点に換算	点→ 点に換算																																							
実施内容	<table border="1"> <tr> <th>面接</th> <th>作文</th> <th>小論文</th> <th>実技</th> <th>学力</th> <th>その他</th> <th>計</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ・ [分, 点満点]	面接	作文	小論文	実技	学力	その他	計								<table border="1"> <tr> <th>面接</th> <th>作文</th> <th>小論文</th> <th>実技</th> <th>学力</th> <th>その他</th> <th>計</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ・ [分, 点満点]	面接	作文	小論文	実技	学力	その他	計																		
	面接	作文	小論文	実技	学力	その他	計																																		
面接	作文	小論文	実技	学力	その他	計																																			
特記事項																																									
学校独自 提出書類	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し ・ []	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し ・ []																																							
その他																																									

教育目標	
育てたい生徒像	
入学者受入方針	

項目	内容
定員※ (募集人数)	人

配点の比重	調査書：自己表現：学校独自検査 = : : (: :)
-------	-------------------------------------

調査書																					
配点	225点 → 点に換算																				
実施内容	※ 標準のみ <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>国</th><th>社</th><th>数</th><th>理</th><th>音</th><th>美</th><th>体</th><th>技</th><th>外</th><th>計</th> </tr> <tr> <td>25</td><td>25</td><td>25</td><td>25</td><td>25</td><td>25</td><td>25</td><td>25</td><td>25</td><td>225</td> </tr> </table>	国	社	数	理	音	美	体	技	外	計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	225
国	社	数	理	音	美	体	技	外	計												
25	25	25	25	25	25	25	25	25	225												

自己表現	
配点	点 → 点に換算
カードの 学校独自質問	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し ・

学校独自検査													
実施有無	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し												
配点	点 → 点に換算												
実施内容	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>面接</th><th>作文</th><th>小論文</th><th>実技</th><th>その他</th><th>計</th> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table> ・ [分, 点満点]	面接	作文	小論文	実技	その他	計						
面接	作文	小論文	実技	その他	計								

特記事項	
学校独自 提出書類	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し ・ []
その他	

※ 入学定員から一次選抜の合格者数（入学を辞退した者を除く。）を除いた人数。

自己表現カード（案）

受検 番号	
----------	--

- このカードは、自己表現を行う際の補助的な資料として活用するものです。
- このカードへの記載の有無、記入量が評価に影響することはありません。
- 話すことが得意でない人は、このカードに記載した内容を自己表現で活用することも可能です。

① これまで、どのようなことに興味や関心を持ち、どのように取り組んできましたか。

② これまで取り組んできたことなどを、今後、どのように深めていきたいですか。

③ 特にアピールしたいことがあれば、記入してください。

④ （※各高等学校・学科・コースで設けたい質問があれば追加する。）

自己表現 評価の在り方（案）

1 考え方

- 「広島県の15歳の生徒に身に付けさせたい力」である「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」が、どのくらい身に付いているかを評価する。
- 「評価の観点」は、次のア、イ及びウの3つとし、その「評価規準」と合わせて全校共通とする。
- 検査官からの質問に対する受検者の回答も評価に含める。
- 「評定」は、4点を基準とし、評価の観点ごとに、5点（「十分に満足できる」状況と判断されるもの）、4点（「おおむね満足できる」状況と判断されるもの）及び3点（「努力を要する」状況と判断されるもの）のいずれかで評価する。
- 自己表現の得点（評定の合計）は、簡易開示の対象とする。

2 配点

- 検査官1人当たり15点満点（3観点×5点満点）

3 評価表（案）

評価の観点			
	ア 自己を認識する力	イ 自分の人生を選択する力	ウ 表現することができる力
評価規準			
	自分は何が好きなのか、自分はどのような人間なのかなど、自分自身のことを認識することができる。	自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができる。	自分自身のことや自分の意見などを、相手に理解してもらえるように、相手や場面に応じて、言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができる。
評価及び評価の視点			
評定			
5点	<input type="checkbox"/> 「十分に満足できる」状況 ○ 「自分自身のことを認識する」ことが十分にできている。	<input type="checkbox"/> 「十分に満足できる」状況 ○ 「自分で考える」「自分で選択する」「自分の意志で決める」ことが十分にできている。	<input type="checkbox"/> 「十分に満足できる」状況 ○ 「相手や場面に応じて」「言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら」伝えることが十分にできている。
4点	<input type="checkbox"/> 「おおむね満足できる」状況 ○ 「自分自身のことを認識する」ことがおおむねできている。	<input type="checkbox"/> 「おおむね満足できる」状況 ○ 「自分で考える」「自分で選択する」「自分の意志で決める」ことがおおむねできている。	<input type="checkbox"/> 「おおむね満足できる」状況 ○ 「相手や場面に応じて」「言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら」伝えることがおおむねできている。
3点	<input type="checkbox"/> 「努力を要する」状況 ○ 「自分自身のことを認識する」ことができていない。	<input type="checkbox"/> 「努力を要する」状況 ○ 「自分で考える」「自分で選択する」「自分の意志で決める」ことができていない。	<input type="checkbox"/> 「努力を要する」状況 ○ 「相手や場面に応じて」「言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら」伝えることができていない。

15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力を育むために

変化の激しいこれからの社会では、子供たちが自ら考え、自分たちの答えを導き出していく力を学んでいくことが不可欠であり、自己実現を図っていくための基礎を義務教育段階で培っていくことが大切です。

これまで本県で取り組んできている「学びの変革」を実践することによって、「**自己を認識する力**」、「**自分の人生を選択する力**」、「**表現する力**」が身に付いてくるものと考えています。

広島県教育委員会では、「**広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力**」としてこれらの力を設定し、公立高等学校入学者選抜の「**自己表現**」において、どのくらい身に付いているのかを評価することとしています。

これらの力は、中学校3年生で突然身に付くものではありません。小学校段階から（強いて言えば乳幼児期から）、自分の考えをしっかりと持たせ、先生や友達に心を開いて何でも話すこと（自己開示）ができる環境の中で、**意図的・計画的**に育てていきましょう。一番大切なことは**自己開示できる安全・安心な環境と信頼関係**です。

このリーフレットでは、それぞれの力をどの場面で育てることができるのか、**各中学校で考えるための参考として例示**しています。



- **自己を認識する力**
- **自分の人生を選択する力**
- **表現する力**

「キャリア教育」の視点で

認識する力

- 行事や普段の生活の中で、生徒の夢の実現に向けた「心に寄り添った進路指導」を心掛け、生徒の自己肯定感を伸ばしていく。
- 産業界の外部講師による「出前授業」を実施する等、地域社会や企業でも「学校での学び」が活用されていることを生徒が実感できる機会を設ける。
- 職場体験学習では、リーフレット等により、受入れ先の企業・事業所等の方と生徒に身に付けさせたい資質・能力を共有し、企業・事業所等の社会的な使命等を伝えてもらえるように連携する。

選択する力

- 自ら職業調べをしたり、高校訪問等をしたりする等、進路の選択に係る情報について、実際に自分で確かめるよう働きかける。
- 「私のキャリアノート」等を活用して、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う。



表現する力

- 職場体験学習の受入れ先の企業・事業所等の方に面接官をお願いして面接練習を実施する等、見知らぬ大人（社会で活躍する教職員以外の職業人）の前で自分の考えを堂々と述べる機会を、意図的・計画的に設ける。

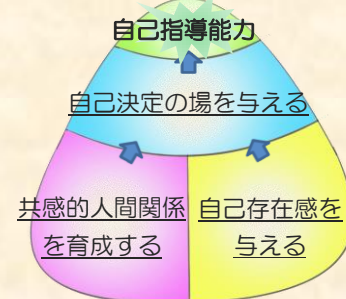
「生徒指導の三機能」を生かして

認識する力

選択する力

表現する力

- 教師と生徒及び生徒間の信頼関係を深め、安全・安心な環境づくりを行っていくために、様々な教育活動において生徒指導の三機能を生かす。
- 自己実現を図るために、「共感的人間関係を育成する」、「自己存在感を与える」（信頼関係）をベースに、「自己決定の場を与える」ことを通して、自己指導能力を育成する。



「教科等の授業」の場面で

認識する力

選択する力

表現する力

- 生徒が、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」に向かうよう、授業中の「問い」を見直したり、パフォーマンス課題を設定したりする等、単元計画を改善する。
- 「課題発見・解決学習」をはじめとした、生徒の「主体的な学び（学習者基点の能動的な深い学び）」を促す授業改善に組織的に取り組む。
- 総合的な学習の時間では、探究的な学習の過程の「課題の設定」において、例えば、実際の体験活動を通して考えさせる等、生徒にとって「自分ごと」になるように課題を設定させる（課題の解決を通して、自己の生き方や将来について考え、自分のよさや可能性に気付いていくことが重要）。



認識する力

- 学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価の改善を進める。例えば、レポートの作成、発表、作品の制作等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりする等、自分の学習してきたことや身に付けた学び方を自己評価し、さらに自分の学習方法を改善していくサイクルを取り入れる。
- ライフプランニングの視点で、生徒自身が、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用し、自分の生き方を考える機会を設ける。（例）技術・家庭（家庭分野）…自らの衣食住、家庭生活、消費生活の在り方について考える。

選択する力

- 発展的な学習場面で、「あなたはどうしたいのか」と常に問いかけ、自己の学習進度や興味・関心に応じて、学習内容等を選択させる。（例）国語…教科書教材での学びを活かし、自分で選んだ他の作品を味わう。数学…習熟のために利用する問題等の教材を、自ら選択し、組み合わせて利用する。

表現する力



- 単元の確認テストや定期テストにおいて、複数の資料から情報を読み取り、自分の考えを表現する等の記述式の問題を出題する。
- 教師自身が、日頃から、正しい言葉を使って簡潔に分かりやすく話し、生徒に対しても、目的や相手に応じて適切に話したり、書いたりするよう指導する。
- 各教科等の特質に応じた言語活動を充実させ、表現の力を計画的に育成する。（例）社会…社会での出来事等に対して、地図やグラフ等を根拠や理由にして自らの考えをまとめ、資料を活用して説明する。理科…自らが立てた仮説を確かめるための実験方法や実験結果についての考察を友達に説明する。音楽（鑑賞領域）…「知覚したこと」と「感受したこと」を関わらせて、自分なりに評価やその根拠を述べる。
- 図書館リニューアルの取組等を参考に、学校図書館の環境整備を行うとともに、主体的な読書活動が充実するよう生徒会行事（ブックトークやビブリオバトル等）を工夫し、読書に親しむ学校文化をつくる。

「家庭学習の課題の提示」の場面で

認識する力

選択する力

- 授業以外の場面においても、学びの主体は子供たちであるという「学習者基点」の意識をもって教育活動を推進する。
- 一つのアプローチが、必ずしも全ての生徒に効果的であるとは限らない。家庭学習の内容等を担当教員等が一方向的に決定し指示するのではなく、
例えば、生徒自身が、
 - ・ 家庭学習の内容と量
 - ・ 学習方法や提出方法
 - ・ 提出期限 等
 を設定する機会を設ける。



それぞれの力を身に付けさせるためには、何でも話すことができ、相談することができる（自己開示）**安全・安心な環境**が欠かせません。

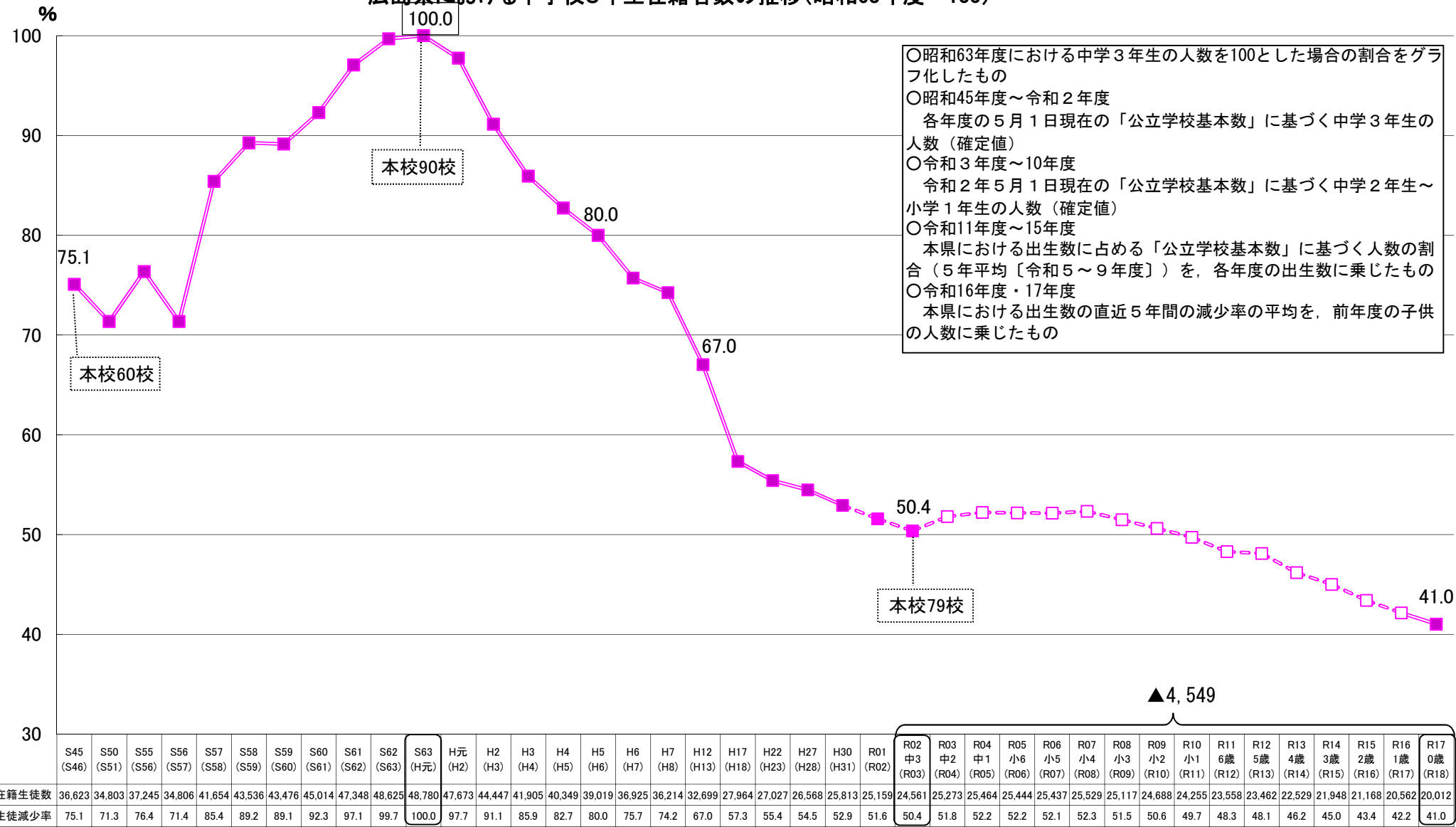


中学3年生在籍者数と定員割れの推移

(単位：人)

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
前年度中学3年生在籍者数	27,302	26,704	26,568	26,749	25,976	25,813	25,159	24,561
前年差	94	▲598	▲136	181	▲773	▲163	▲654	▲598
公立受入数(設定)	17,332	16,797	16,582	16,523	16,153	16,122	15,708	15,282
前年差	▲106	▲535	▲215	▲59	▲370	▲31	▲414	▲426
全日制学級数	424	413	409	408	397	394	384	374
前年差	▲2	▲11	▲4	▲1	▲11	▲3	▲10	▲10
定員割れ	689	659	687	707	852	851	1,210	—
定員割れ率	4.1%	4.0%	4.2%	4.3%	5.4%	5.4%	7.9%	—

広島県における中学校3年生在籍者数の推移(昭和63年度=100)



○昭和63年度における中学3年生の人数を100とした場合の割合をグラフ化したもの
 ○昭和45年度～令和2年度
 各年度の5月1日現在の「公立学校基本数」に基づく中学3年生の人数(確定値)
 ○令和3年度～10年度
 令和2年5月1日現在の「公立学校基本数」に基づく中学2年生～小学1年生の人数(確定値)
 ○令和11年度～15年度
 本県における出生数に占める「公立学校基本数」に基づく人数の割合(5年平均〔令和5～9年度〕)を、各年度の出生数に乗じたもの
 ○令和16年度・17年度
 本県における出生数の直近5年間の減少率の平均を、前年度の子供の人数に乗じたもの

▲4,549

対S63 (H元) 比 ▲24,219

▲28,768

※ ()内は高校入学年度を示す。広島市立広島中等教育学校の在籍生徒数は除く。

県立高等学校の配置及び規模の在り方に係る 基本的な考え方及び取組の方向性

《基本的な考え方》

- 地域のニーズや生徒・保護者の希望等に応えることができる学校を適正に配置することが必要。
- 1 学年6 学級を標準とする。
- 中山間地域以外の地域は、1 学年4～8 学級の範囲内を基本とする。
- 中山間地域は、1 学年2～6 学級の範囲内を基本とする。

《取組の方向性》

- 1 学年3 学級以下の学校については、授業交流等による学校間の連携や地域と連携した特色づくり等の活性化を図る。
- 1 学年1 学級規模の全日制高等学校については、「学校活性化地域協議会」を設置し、活性化策を検討する。
 - ※ 1 学年1 学級規模の全日制高等学校については、全校生徒数が2 年連続して収容定員の2/3（80 人）未満となった学校については、統廃合等の対象とする。
- 中山間地域以外の地域の学校については、生徒急増期に高等学校が新設された後、生徒減少に転じた後も、学校数がほとんど変わっていない状況であることから、今後の生徒数の減少に対しては、1 学年4～8 学級規模の学校を含め、統廃合を検討する。

「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（H26.2）」引用

【生徒急増期 S45～S63】計 30 校新設（新設：15 校，本校化：11 校，県移管：4 校）

年度	区分	学校名	年度	区分	学校名
S46	本校化	黒瀬	S53	本校化	豊田
S47	本校化	江田島	S53	本校化	豊
S47	本校化	自彊	S53	本校化	久井
S48	本校化	三和	S54	新設	安西
S49	新設	安芸	S55	新設	安芸府中
S49	新設	五日市	S55	新設	神辺旭
S49	県移管	河内	S55	県移管	府中東
S50	新設	安古市	S56	本校化	大和
S50	新設	大門	S58	新設	廿日市西
S50	県移管	福山明王台	S58	新設	祇園北
S50	県移管	至誠	S58	新設	高陽東
S50	本校化	倉橋	S58	新設	呉昭和
S52	新設	高陽	S58	本校化	高宮
S52	新設	熊野	S60	本校化	湯来南
S53	新設	広島井口	S61	新設	安芸南

【生徒急減期 H元年～】募集停止：13 校 学校統合等：7 校

実施年度	募集停止・学校統合等
H6	豊（★）
H10	大崎・木江工業 → 大崎海星 ----- 至誠（★）・戸手商業 → 戸手
H11	因島・因島北 → 因島
H13	広蒲刈分校
H15	本郷工業，千代田豊平分校
H16	倉橋（★）
H17	三和（★） ----- 尾道工業 → 総合技術
H19	庄原格致高野山分校
H20	江田島（★），久井（★）
H21	自彊（★），高宮（★）
H22	大和（★），白木

★は生徒急増期に新設・本校化・県移管した学校